

令和7年度住宅防火対策推進事業実施結果

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 公益財団法人 日本消防協会

担当者名 業務部 副主幹 新井聡宏

事業項目	事業の概要
ラジオ放送による 広報	ニッポン放送をキー局とした全国30ネットで、芸能界、スポーツ界等の著名な方々による「消防応援団」のメンバーの方にゲストとして御出演いただいているラジオ番組『おはよう！ニッポン全国消防団』のCMにおいて住宅防火対策について広報を実施した。 (毎週土曜日又は日曜日放送) 令和7年度中は計52回放送
消防団研修及び 各種イベントの開催	消防団員指導員研修等において、住宅用火災警報器の設置及び維持管理の住民に対する指導要領等を消防団員に指導した。
冊子及びホームページでの 広報	消防団の活動事例等を掲載した冊子『地域防災力の充実強化と消防団～新たな災害環境に対応する消防団運営～』において、地域住民への住宅防火対策（住宅用火災警報器の設置及び維持管理等）の取組みを紹介し、併せて、当協会ホームページにも掲出した。 冊子については、全国の消防団に配布した。
消防団防災学習・災害 活動車両交付事業	消防団防災学習・災害活動車両交付事業は、地域の総合的な防災力の充実強化を図ることを目的に実施した。 防災訓練等への取組みを支援するため、平時は地域住民、子供たち、事業所等の防災学習や防災指導用として活用し、災害時は緊急車両として消火・救助資機材の搬送や現場活動に活用できるもので、平成26年度から全国の消防団に交付している。 この車両を活用して、自主防災組織、女性防火クラブ及び少年消防クラブ等に煙体験ハウスや訓練用水消火器を使用した防災訓練及びプロジェクターやスクリーンを使用したDVDによる防災教育等を実施し、防火・防災の普及啓発を行った。
少年消防クラブ交流 会全国大会の開催	広島県広島市で開催した大会参加者に対し、防災VR、合同訓練を通じて防火・防災の普及啓発を行った。 (令和7年9月13日、14日 50チーム参加)

防災・減災フェスティバル



消防団概要

都道府県名 宮城県
 消防団名 塩竈市塩竈消防団
 実団員数 75名 (うち女性団員 9名)
 HPアドレス <https://www.city.shiogama.miyagi.jp/>
 消防団事務局 〒985-8501
 宮城県塩竈市旭町1番1号
 総務部危機管理課危機管理係 (消防団事務局)
 電話 022-355-6491
 メールアドレス kikikanri@city.shiogama.miyagi.jp

活動内容

実施日： 令和6年11月3日(日)
 場所： 湾ダブルしおがま海浜公園
 (北浜緑地公園)
 目的・経緯： 「津波防災の日」に併せて消防団員及び協力団体による防火・防災資機材の使用方の説明や展示及び災害時の炊き出し訓練を行い、多くの市民の方に対する防災意識の啓発を図った。
 対象： イベント来場者 (主に市民)
 費用等： 無料



水消火器ストラックアウト



ドローンによる物資搬送



消防団車展示・乗車

特記事項

大型ドローンを使用し、災害時にランデブーポイントの無い浦戸諸島・朴島への食糧等の物資搬送訓練を実施したところ、見学していた市民から反響がありました。
 また、多くの子どもたちが消防車両の乗車や防火衣装着体験を行いました。水消火器を使用したストラックアウトでは、親子で楽しみながら大いに盛り上がり、イベントを通して消防団の活動に触れる機会になったものと思います。
 さらに、会場内では、入団促進のためのチラシ配布などを実施しました。徐々に減少傾向にあった団員数も次年度には僅かに増加するなど、一定の効果があったものと思われ、これが、子どもたちへのPRにより将来の団員確保につながることを期待しています。

令和7年度住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般財団法人 日本防火・防災協会

担当者名 振興部長 浦船利幸

事業項目	事業の概要
住宅防火推進事業	<p>① 火災予防活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none">住宅用火災警報器の設置促進活動及び維持管理方法等の普及啓発として、住宅防火啓発用冊子「火災から命を守る 住宅防火読本(改訂版)」30万部を作成。全国の消防本部に配布し、その普及啓発を図った。女性防火クラブにより、住宅用消火器等の設置促進、地域住民参加の消火・通報訓練を実施した。 <p>② 市町村女性防火クラブ幹部地域研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none">全国6ブロックにおいて女性防火クラブ研修会を開催し、住宅防火対策の推進を図った。このうち3ブロックで日本火災報知機工業会、2ブロックでガス警報器工業会の協力を得て、住宅用火災警報器、ガス・CO警報器の普及啓発を図った。 <p>③ 女性防火クラブ等防火防災対策行事への助成</p> <ul style="list-style-type: none">今年度は、34地区で地区大会・地区研修会を開催し助成金を交付した。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般財団法人日本消防設備安全センター

担当者名 業務部業務課 主任 田口 龍太郎

事業項目	事業の概要
住宅防火パンフレットの作成・頒布事業	前年度に引き続き、住宅火災から命を守るための習慣や必要な対策をとりまとめたパンフレット(いのちを守る10のポイント)を、全国の消防設備協会を通じて、地域における防火防災訓練や防火防災関連イベント等において地域住民に広く配布し、住宅火災による死者の低減に向けた啓発活動を実施。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 一般財団法人 消防試験研究センター

御担当者名 総務課主査 見留 直樹

事業項目	事業の概要
展示会の出店に係る事業	「第52回国際福祉機器展H. C. R. 2025」へブースを出展し、危険物取扱者及び消防設備士試験の普及促進に係る広報活動を実施した。



令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 一般財団法人 消防防災科学センター

御担当者名 胡 哲新

事業項目	事業の概要
消防本部における住宅防火対策に係る取り組みの実態調査等	<p>当センターでは、定期的に消防本部からの受託業務を行っており、その際、消防本部における住宅防火対策に係る取り組みの実態等の聞き取りに努めている。</p> <p>令和7年度の業務の中で、次のような情報提供があった。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 新築住宅に対する住警器の設置義務化がスタートした平成18年以降、国全体の住宅火災件数及び住宅火災による死者数がおおむね減少傾向にあり、住警器の普及促進による効果が表れていると考えられる。○ 人口10万人未満の山あい地域などにおいても住警器を設置している家庭は年々増えている一方、田畑の野焼きや庭先のたき火など屋外から住宅に延焼する事例があり、注意喚起にとどまらない対策が必要と考えている。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般財団法人日本ガス機器検査協会

担当者名 岸野 寛

事業項目	事業の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に基づく資格付与・講習事業 ・ ガス関連業界制度に基づく設備等の施工に関する資格付与・講習事業 	<p>【事業概要】</p> <p>ガス機器の設置に際しては、火災予防上の配慮や給排気設備の適切な取り付け等が必要不可欠で、これを怠った場合は火災等の事故が発生する恐れがあります。「ガス機器の設置基準及び実務指針（通称：黒本）」は、ガス機器の安全な設置に関する基準・指針で、消防法や建築基準法をはじめとする関係法令を網羅しています。黒本は、学識経験者、通商産業省、建設省、自治省消防庁、ガス業界、ガス機器業界及びその他の関係諸団体の参画を得て、1983年3月に初版が発刊されました。以降、関係法令の改正、建築様式の変化、ガス機器の技術進歩及び新たな施工方法の開発等に対応した改定を重ね、40年余りにわたり各方面で御活用いただいております。2022年12月には最新の家庭用黒本第9版が発刊されました。また、実務者向けにガス機器の設置に関する基準・指針を現場ですすぐにご確認いただけるよう、持ち運びに便利なコンパクトサイズにまとめた『実務者必携 ガス機器設置工事者のためのポケットブック』を2010年に刊行しております。ポケットブックは黒本には無い施工上の留意点等も掲載されており、家庭用黒本第9版に準拠した最新版は、2025年2月から販売を開始しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>サイズ： タテ297mm×ヨコ210mm</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>サイズ： タテ180mm×ヨコ90mm</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>ガス機器の設置基準 及び実務指針（家庭用） 第9版</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>家庭用ポケットブック （ガス機器の設置基準及び 実務指針（第9版）準拠版）</p> </div> </div>

安全啓発活動

大田区から協力要請をいただき、令和7年度大田区総合防災訓練（糀谷地区）に一般社団法人日本石油機器工業会（JGKA）と共同で参加いたしました。【訓練参加者数：約1,400名】

活動内容として、災害発生時にライフラインが絶たれたとき、カセットボンベを使用した製品が有用であることから、カセットこんろやカセットストーブなどを安全に使用していただくための安全啓発を実施しました。



検査認証事業

ガストーチの事故増加に伴う法令規制に関し、2026年2月5日で1年間の経過措置期間が終了いたしました。これにより、現在はPSLPGマークの表示がない製品の販売が禁止されるなど、本格的な運用フェーズに入っています。弊会は第三者機関（適合性検査の登録検査機関）として適合性検査を実施し、ガストーチ大手5社（合計国内シェア約9割）の合計31型式について認証（令和7年12月11日 現在）を行い、経済産業省主催の製品安全小委員会にて以下のとおり報告されました。

ガストーチ規制の本格施行に向けた対応状況

- 「携帯液化石油ガス用バーナー」（ガストーチ）について、令和6年12月の液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（略称：液石法）の政令改正により、**規制対象製品**（変形PSLPGマーク対象）に追加。1年間の経過措置期間が終了し、**令和8年2月6日から本格施行**予定。
- 液石法に基づく登録適合性機関（日本ガス機器検査協会（JIA））検査の実施状況としては、**ガストーチ大手5社（合計国内シェア約9割）**が、合計31型式について認証（令和7年12月11日 現在）を受け、**技術基準に適合していることを示す変形PSLPGマークを表示の上、市販開始**。この他、検査中1社、さらに、検査申込み相談中が数社あり。
- 本格施行後は、ネットパトロールや試買テスト（※）**などを通じて、**執行の適正性を確保**。また、**業界の取組**として、ガス機器の工業会（日本ガス石油機器工業会）においても、**毎月、ネットパトロールを実施**する予定。

※試買テストとは、市販されている製品を買い上げ、法令遵守状況（技術基準の適合状況及びPSLPGマーク表示有無など）を確認。

◆ ガストーチとは

カセットボンベなどのガスカートリッジと点火装置及びノズルが付属している本体を接続して、ガス流量等を調節しながら点火装置で着火し、火口から高温の炎を噴出させる燃焼器具。



※ 第19回 産業構造審議会 保安・消費生活用製品安全分科会 製品安全小委員会（2026年1月22日開催）の「資料3-1」より引用

また、業務用水素ガス厨房機器の検査認証を通じ、2025年は「業務用こんろ」と「業務用焼き物器」を各1型式認証しました。2024年の

開始以来、累計認証数は3型式に達しています。

引き続き、ガス機器を主体とした検査認証事業を通じて製品事故の防止に貢献していきます。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

一財日本石油燃焼機器保守協会

湯浅 達也

事業項目	事業の概要
石油機器技術管理講習・試験	会場での2日間の講習又はDVDによる講習で、講習2日目の最後又は再講習終了後に資格認定試験を実施している。令和7年度は、2月末までに全国19か所で一般講習を実施して受講者は480人、DVDでの講習受講者は120人となっており、認定試験合格者は合わせて594人であった。
石油機器技術管理再講習	資格を取得後5年ごとに1日の再講習を実施している。令和7年度は2月末までに全国58か所で実施し、受講者は3182人であった。また、DVDでの再講習受講者は441人で再講習修了者は合計3623人となっている。
情報誌「テクノメンテ」の発行	火災予防思想の普及と石油燃焼機器のメンテナンスのための情報誌「テクノメンテ」を年2回制作し発行している。令和7年度は4月と10月に維持会員6法人、点検整備会員約1200人、消防本部等730機関へ配布した。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般財団法人 日本燃焼機器検査協会

担当者名 検査部 穴倉謙秀

事業項目	事業の概要
ホームページによる石油ストーブ等の使用に係る注意喚起	当協会のホームページに石油ストーブ等の誤使用に係る事故例を掲載し、火災事故等を起こさないための対策及びFF式石油ストーブの長期間の使用に係る注意事項を紹介した。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

住宅防火対策推進協議会

担当者(一財)日本防火・危機管理促進協会

参与兼事務局長 梅原 直

事業項目	事業の概要
<p>住宅防火防災推進シンポジウムに係る事業 (資料1)</p>	<p>令和7年度住宅防火推進シンポジウム～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～を東京都港区、岡山県岡山市の2箇所で開催した。</p> <p>1 開催日時等 (1) 東京都港区 令和7年11月25日(火) (2) 岡山県岡山市 令和8年2月21日(土)</p> <p>2 開催場所 (1) 東京会場 日本消防会館・ニッショーホール (2) 岡山会場 おかやま未来ホール</p> <p>3 開催内容 第1部 ダニエル・カールの防災がんばっぺ 第2部 基調講演 重川氏(東京会場)、関澤氏(岡山会場) 第3部 住宅用防災機器等の動画を交えての紹介(岡山会場のみ) 第4部 「住宅防火に関するパネルディスカッション」 重川氏(東京会場)、関澤氏(岡山会場) 総務省消防庁予防課、ダニエル・カール氏、開催本部の関係者 その他 住宅用防災機器の紹介(各会場エントランスホールにて) 総務省消防庁予防課、(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会、(一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会、ガス警報器工業会</p>
<p>CATV等による住宅防火広報事業 (資料2)</p>	<p>消防本部で実施されるイベントの機会に住宅防火広報を行うとともにCATV(ケーブルテレビ)等向けの番組を作成し、放送する事業を全国3カ所で実施した。</p> <p>1 山形県東根市消防本部 令和7年9月28日(日) 「た〜んとほおバルフェスタ及び住宅用防災機器等の紹介」 放送日：11月10日(月) テレビユー山形</p> <p>2 千葉県我孫子市消防本部 令和7年9月28日(日) 「我孫子市消防フェア及び住宅用防災機器等の紹介」 放送日：12月20日(土)、21日(日) J:COM東葛他</p> <p>3 愛知県新城市消防本部 令和8年1月18日(日) 「新城消防祭及び住宅用防災機器等の紹介」 放送日：2月28日(土) ティーズチャンネル豊橋ケーブルネットワーク 住宅用火災警報器をはじめ各種住宅用防災機器等を会場来場者及びテレビ放送の中で紹介し、普及啓発に努めた。</p>

住宅防火広報資料等の作成事業	<p>児童や園児が楽しみながら火の怖さを知り、防火意識を高めるアニメによる住宅防火クイズの動画を作成し、学校・幼稚園・保育園などで活用していただけるよう指導用解説書を付けて消防本部に配付した。</p> <p>また、協議会ホームページにも動画を掲載した。</p>
住宅用防災機器等の展示会への出展に係る事業	<p>第52回国際福祉機器展「H. C. R. 2025」への出展</p> <p>1 開催日 令和7年10月8日（水）～10日（金）</p> <p>2 場 所 東京国際展示場（東京ビックサイト・西・南展示ホール） （一社）日本火災報知機工業会、（一社）日本消火器工業会、（一社）日本消火装置工業会、（公財）日本防災協会、ガス警報器工業会及び（一財）消防試験研究センターと協力して、住宅用火災警報器の設置促進、住宅用防災機器等の普及等と住宅防火意識の高揚を図るための広報を実施した。</p> <p>※入場者数： 121, 137人 当協議会アンケート回答者 2, 761人</p>
住宅防火情報の提供に係る事業	<p>協議会ホームページにケーブルテレビ事業などの新着情報を掲載し、住宅防火の普及啓発に努めた。</p>

（日本消防検定協会委託事業）

住宅防火啓発冊子の作成事業 （資料4）	<p>高齢者の住宅火災による死者数の低減を図るため、住宅火災の発生・拡大の各段階において必要とされる対策について、出火防止対策、早期発見対策、初期消火対策、延焼拡大防止対策といった観点で取りまとめたテキストを、日本消防検定協会からの委託により作成し、全国の消防本部に配付した。</p> <p>作成部数 20万部</p>
------------------------	---

令和7年度 住宅防火防災推進シンポジウム ～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～

- 名称： 令和7年度住宅防火防災推進シンポジウム
～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～
- 開催日 令和7年11月25日(火)
- 開催時間： 13:00～15:00
- 会場： 日本消防会館・ニッショーホール
東京都港区虎ノ門2丁目9番16号
- 主催： 住宅防火対策推進協議会
- 協力： 東京消防庁
- 後援： 総務省消防庁、日本消防検定協会、(一財)日本防火・防災協会
(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会
(一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会、
ガス警報器工業会、(一財)日本防火・危機管理促進協会



令和7年度 **住宅防火防災** 推進シンポジウム in 東京 **入場無料**

～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～

住宅防火防災対策で大切なのは、
「自らの身は自ら守る」意識。そして共に助け合うことです。
この機会に街を守る方法を一緒に考えよう！

11月25日(火) 13:00～15:00

会場 日本消防会館・ニッショーホール
東京都港区虎ノ門2丁目9番16号 TEL:03-6264-6021

プログラム

12:15	受付開始
13:00	開会・あいさつ 小宮大一郎 (一財)日本防火・防災協会 会長 会費 無料 (別途お弁当代別)
13:10	① 基調講演 ニッショー会長 野間浩二氏
13:45	② ダニエル・カールの防災がらみっぺ ダニエル・カール 講師 東京に在住する米国人消防士兼建築師 山口 隆也 (一財)日本消防検定協会
14:20	③ パネルディスカッション ニッショー 基調講演 野間浩二氏 パネリスト 遠岡 昌隆 (一財)日本消防検定協会 講師 消防士 山本浩司氏(消防士) 池田誠氏(消防士) 顧問 新井 敏夫氏(消防士) 司会 吉岡 幸一氏(消防士)
15:00	閉会

主催 住宅防火対策推進協議会
協賛 東京消防庁
協賛 消防庁消防士(日本消防検定協会) 協賛 消防士(日本消防検定協会)
(一財)日本防火・防災協会 協賛 (一財)日本火災報知機工業会 協賛 (一財)日本消火器工業会
協賛 (一財)日本消火装置工業会 協賛 (公財)日本防災協会 協賛 ガス警報器工業会 協賛 (一財)日本防火・危機管理促進協会

TEL 03-6264-6021
TEL 03-3212-2111

記録写真

住宅用防災機器等の展示ブースの様子

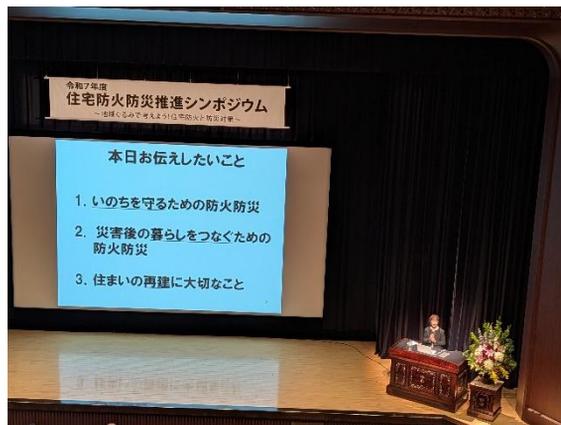




主催者代表挨拶



東京消防庁代表挨拶



重川希志依常葉大学名誉教授による「基調講演」





ダニエル・カールさんとトークショーの様子



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションの様子



会場全員で「防火・防災がんばっぺ！」コール

令和7年度 住宅防火防災推進シンポジウム ～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～

- 名 称： 令和7年度住宅防火防災推進シンポジウム
～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～
- 開催日 令和8年2月21日(土)
- 開催時間： 13:00～16:00
- 会場： おかやま未来ホール
岡山県岡山市北区下石井1-2-1(イオンモール5階)
- 主 催： 住宅防火対策推進協議会
- 協 力： 岡山市消防局
- 後 援： 総務省消防庁、日本消防検定協会、(一財)日本防火・防災協会
(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会
(一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会、
ガス警報器工業会、(一財)日本防火・危機管理促進協会



令和7年度 **住宅防火防災** 推進シンポジウム in 岡山 **入場無料**

～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～

色住宅防火対策で大切なのは、「自らの身は自ら守る」意識。そして共に助け合うことです。
この機会に街を守る方法を一緒に考えよう！

2月21日(土) 13:00～16:00
会場 **おかやま未来ホール**
岡山県北区下石井1-2-1(イオンモール5階) TEL.086-823-6207

当日プログラム

12:15	受付開始
13:00	開会・あいさつ 小澤大一郎 (一財)日本防火・防災協会 会長兼事務局長 上田 隆 岡山府県消防 副所長
13:10	① 基調講演 野原 隆 消防庁 消防長官補佐(住宅防火対策担当)
13:40	② ガン・エス・カールの防災がんばっぺ タニエール 長瀬 昭夫 岡山府県消防(住宅防火対策担当)
14:05	③ 住宅用防災設備紹介
14:40	④ パネルディスカッション コーディネーター 野原 隆 消防庁 消防長官補佐(住宅防火対策担当) パネリスト 野田 真実 岡山府県消防(住宅防火対策担当) タニエール 隆 橋本 隆二 岡山府県消防(住宅防火対策担当)
16:00	閉会

主催：住宅防火対策推進協議会
協賛：岡山府県消防
後援：総務省消防庁、日本消防検定協会、(一財)日本防火・防災協会、(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会、(一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会、ガス警報器工業会、(一財)日本防火・危機管理促進協会

お問い合わせ先
TEL.03-6264-6021
TEL.086-234-1199

イオンモール岡山(おかやま未来ホール)

記録写真

住宅用防災機器等の展示ブースの様子





主催者代表挨拶



岡山市消防局消防長挨拶



NPO法人日本防火技術者協会理事長 関澤氏による「基調講演」





ダニエル・カールさんとのトークショーの様子



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションの様子



会場全員で「防火・防災がんばっぺ！」コール

CATV等による住宅防火広報事業

(協力:東根市消防本部)

■事業名:CATV等事業

「た〜んとほおバルフェスタinひがしね2025及び住宅用防災機器の紹介」
 ～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～

■開催日時:令和7年9月28日(日) 10:00～16:00

■会 場:東根市民体育館第1駐車場他
 山形県東根市大字東根乙1119-1

■イベント実施主体:た〜んとほおバルフェスタ実行委員会事務局
 (東根市観光観光物産協会内)

■広報事業実施内容

- (1)た〜んとほおバルフェスタinひがしね2025
- (2)ダニエル・カールの防火・防災がんばっぺ！トークショー
- (3)住宅用防災機器の広報

◆ 応援参加:山形弁研究家 ダニエル・カール

◆住宅用防災機器展示団体:(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会
 (一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会
 ガス警報器工業会

■ケーブルTVによる放映:テレビユー山形 11月10日(月)10時25分～10時55分



開催広報用チラシ



果樹王国ひがしね
 イメージキャラクター
 タントくん



全国小棒イメージキャラクター
 消 太



消防本部作成広報用チラシ

会場の様子



好天に恵まれ大勢の来場者で賑わう会場



オープニングの撮影の様子



防火・防災がんばっぺ！トークショーの様子



消防団の活動紹介の様子



はしご車の紹介を消太くと一緒に



エンディング撮影の様子

住宅用防災機器展示ブースでの撮影の様子



住宅用防災機器展示ブース



(一社)日本火災報知器工業会



(一社)日本消火器工業会



(一社)日本消火装置工業会



(公財)日本防災協会



ガス警報器工業会

CATV等による住宅防火広報事業

(協力:我孫子市消防本部)

■事業名:CATV等事業

「我孫子市消防フェア及び住宅用防災機器の紹介」

～地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策～

■開催日時:令和7年11月9日(日) 10:00～15:00

■会場:アビクオーレエントランスホール(イトーヨーカドー我孫子南口店)
千葉県我孫子市本町3丁目2番1号

■イベント実施主体:我孫子市防災協会

■広報事業実施内容

(1)我孫子市消防フェア

(2)ダニエル・カールの防火・防災がんばっぺ！トークショー

(3)住宅用防災機器の広報

◆応援参加:山形弁研究家 ダニエル・カール

◆住宅用防災機器展示団体:(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会
(一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会
ガス警報器工業会

■ケーブルTVによる放映 12月20日(土)9:00～、21日(日)20:30～(東葛)
12月20日(土)9:00～、21日(日)20:30～(東関東)



第16回
我孫子市消防フェア

日時:令和7年11月9日(日)
午前10時00分から午後3時まで
場所:アビクオーレ
エントランスホール
(イトーヨーカドー我孫子南口店)
我孫子市本町3丁目2番1号

・タイムスケジュール・
10:00 消防フェア始まり
～11:30 ダニエル・カールさんが会場の
展示ブースを紹介しながら
防火防災についてのトークショー
(終了後13:00まで休憩)
13:00 我孫子吹奏楽団の演奏会
13:30 防火ポスター表彰式
～14:00
15:00 消防フェア終了

ダニエル・カール
防火防災がんばっぺ
トークショーの撮影が
入るよ!

アビクオーレ劇やき前
では消防車両の展示、子供
消防服も着られますので、
ぜひ見に来てください!

会場の様子



開場を待つメインステージ



イベントを盛り上げた「たすけ」「消太」「すくう」



防火・防災がんばっぺ！トークショーの様子



防火ポスター表彰式の様子



雨にも負けず…はしご車の紹介



我孫子吹奏楽団の軽やかな演奏♪

住宅用防災機器展示ブースでの撮影の様子



住宅用防災機器展示ブースの準備の様子



(一社)日本火災報知器工業会



(一社)日本消火器工業会



(一社)日本消火装置工業会



(公財)日本防災協会



ガス警報器工業会

会場の様子



国旗掲揚「国旗に注目…(´ω´)ゞ」



交通事故対応訓練の様子



イベントを盛り上げた
新城市消防団公認マスコット「まもりん」



まもりんに負けないぞ！
全国消防イメージキャラクターの「消太」



救急車に収容された様子を見守るダニエルさん



煙の怖さを体験！

住宅用防災機器展示ブースの様子



住宅用防災機器展示ブースの撮影準備の様子



(一社)日本火災報知器工業会



(一社)日本消火器工業会



(一社)日本消火装置工業会



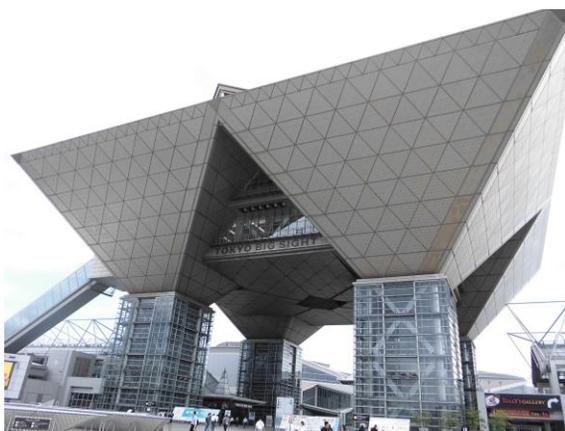
(公財)日本防災協会



ガス警報器工業会

第52回国際福祉機器展 & フォーラム・H.C.R.2025

- 開催日 令和7年10月8日（水）10時00分～17時00分
9日（木）10時00分～17時00分
10日（金）10時00分～16時00分
- 会場 東京ビッグサイト 西展示ホール
- 主催 全国社会福祉協議会／保健福祉広報協会
- 目的 住宅火災の死者は、ここ数年1,000人程度で、その約7割以上が65歳以上の高齢者であることから、住宅火災から命を守るための様々な住宅用防災機器等を展示し、来場者に各種機器の有効性を実感していただき、住宅用防災機器等の普及促進を図るとともに、住宅防火に対する意識の高揚を図ることを事業目的としています。
- 出展主催 住宅防火対策推進協議会
- 出展社 （一財）消防試験研究センター、（一社）日本火災報知機工業会、（一社）日本消火器工業会、（一社）日本消火装置工業会、（公財）日本防災協会、ガス警報器工業会
- 来場者 10月8日（水） 40,805人
10月9日（木） 41,587人
10月10日（金） 38,754人 合計121,137人
- アンケート 住宅防火クイズアンケート実施者数 2,761人



東京ビッグサイト



東京ビッグサイト西展示ホール



（一社）日本火災報知機工業会による展示



（一社）日本消火装置工業会による展示



ガス警報器工業会による展示



(一財)消防試験研究センターによる展示



(一社)日本消火器工業会による展示



(公財)日本防災協会による展示



プレゼンテーションでの住宅防火クイズ(part1)



プレゼンテーションでの住宅防火クイズ(part2)

○住宅防火広報資料の作成

児童や園児が楽しみながら火の怖さを知り、防火意識を高めるアニメによる住宅防火クイズの動画を作成し、学校・幼稚園・保育園などで活用していただけるよう指導用解説書を付けて消防本部に配付しました。

また、協議会ホームページにも動画を掲載しました。

住宅防火対策推進協議会ホームページ(動画映像資料)

<https://www.youtube.com/watch?v=H2X8Ls8NFOM>



○住宅防火啓発用冊子の作成・配布

高齢者の住宅火災による死者数の低減を図るため、住宅火災の発生・拡大の各段階において必要とされる対策について、出火防止対策、早期発見対策、初期消火対策、延焼拡大防止対策といった観点で取りまとめたテキストを、日本消防検定協会からの委託により作成し、全国の消防本部に配付しました。

<作成部数> 20万部

高齢者のための 安全・安心 住宅防火研修

住宅火災事件簿

はじめに

住宅火災による死者を防ぐために

高齢者の住宅火災による死者数の低減を図るため、住宅火災における各段階において必要とされる対策について、出火防止、早期発見、初期消火、避難安全といった観点でテキストを作成しました。

住宅火災はどのくらい起きていますか？

近年の住宅火災の件数は、約11,000件、亡くなった方は約1,000人となっており、増加傾向に転じています。住宅火災で亡くなった方のうち約75%が65歳以上の高齢者です。また、住宅火災で亡くなった理由は、病気などで身体が不自由だったことや熟睡していたことなどによる「逃げ遅れ」が全体の半数近くを占めています。

目次

- 1 たばこの火の不始末による出火 2
- 2 電気ストーブなどの不適切な使用による出火 3
- 3 コンロ使用中の放置による出火 4
- 4 コンロの火が着衣に着火 5
- 5 テーブルタップで多くの電気器具を使用し、コンセントから出火 6
- 6 ろうそくの火がカーテンに着火 7
- 7 電子レンジの不適切な使用による出火 8
- 8 使用中の石油ストーブに洗濯物が落下し出火 9
- 9 地震後の送電再開時の電気機器などからの出火 10

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 (一社)全国LPガス協会

御担当者名 瀬谷 孝之

事業項目	事業の概要
ガス警報器設置・交換、住宅用火災・CO警報器設置運動の展開	・消防庁、経済産業省にご後援名義を頂いた「令和7年度ガス警報器設置交換促進啓発ポスター」（約2.7万枚）及び冊子「ガスもれ事故防止のための手引き」（約32.2万部）を、都道府県LPガス協会を通じてLPガス事業者から消費者へ配布するとともに、各種警報器の設置及び交換促進運動の積極的な推進を行った。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名：（一社）全国消防機器販売業協会

担当者名：事務局長 岡田 昇

事業項目	事業の概要
住宅防火情報の提供に係る事業	<p>「消防防災関係の講演会」の実施 開催日：令和7年5月9日（金） 会場：KKRホテル東京 154名参加</p> <p>全消販の定時総会後に、消防庁予防課長を講師とした講演会を開催した。全国正会員と賛助会員の消防関係メーカー、消防関係工業会・協会から多数の参加をいただき、住宅防火に対する専門知識の向上とともに、地域社会の防災意識の向上に努めた。</p>
消防法及び住宅防火情報に係る事業	<p>「消防上部関連団体役職者による講演会と情報交換会」の実施 開催日：令和7年11月20日（木） 会場：ホテルアソシア静岡 98名参加。</p> <p>静岡市の消防本部、関連団体と、全国的全消販会員の参加により、消防庁予防課課長補佐による講演会（予防行政）を実施した。また、以下の特別講演を実施後交換会、製品紹介等を行ない住宅防火防災に対する専門知識の向上、防災意識の向上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none">・静岡県地震防災センター所長「静岡県の地震・津波対策」・NPO日本防災環境専務理事「企業防災について」
消防設備点検業務実施者の資質向上事業	<p>全消販は、平成6年から優良な点検業務実施者の発掘と資質の向上を図って、優良事業所認定制度を運営してきましたが、平成30年に制度の刷新を図り運営を開始し、今年度は更新25社、新規申請2社を認定しました。 累計では100社（115事業所）の認定となります。</p>
消火器リサイクル促進に関する広報活動	<p>記念日「家庭用消火器点検の日（1月19日）」の訴求を消火器リサイクル推進センター及び日本消火器工業会と連携して実施した。</p>

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 一般社団法人 日本火災報知機工業会

御担当者名 事務局 長 高宮 恭一

事業項目	事業の概要
住宅用火災警報器の普及促進	<p>(1) ノベルティグッズを活用した広報資料の無償提供事業の実施 工業会ホームページでの申込受付により防火防災イベント等の主催者等の希望者に対し、</p> <p>①「住宅用火災警報器 交換促進タオル」、 ②「住宅用火災警報器 交換診断シート」、 ③「住宅用火災警報器 交換診断推進リーフレット」 各100枚を1セットとして約70セットを無償提供した。 配付するイベントの写真等の情報頂き、「とりカエル」公式Xへの公開し、情報を展開した。約8割から情報を頂き、さらなる広報活動として活用した。</p> <p>(2) PC・スマホによる住宅用火災警報器オンライン交換診断の運用 パソコン・スマートフォンによる「オンライン交換診断」を引き続き工業会ホームページで運用している。</p> <p>(3) 住宅用火災警報器 チラシの無償配付 ホームページからの問い合わせに対して、掲載されている7種類のチラシの必要部数の配布を行った。</p> <p>(4) 春・秋の火災予防運動に合わせたSNS・Web広告の実施 春と秋の2回、SNS・Web広告を実施し、広告クリックで「とりカエル」スペシャルサイトへの招待及び住宅用火災警報器 点検・交換推進の15秒CM動画の配信を行った。 通常期の40倍以上のアクセス数となり、一定の広告効果が得られた。</p>
住宅用火災警報器の各種リーフレット・資料映像等による広報	<p>従来からある「住宅用火災警報器 交換診断シート」、「住宅用火災警報器 設置・交換ガイドブック」など7種類のリーフレット類や、「住宅用火災警報器のはたらき」、「住宅用火災警報器 交換のおすすめ 10年たったら、とりカエル。」などの映像資料に、SNS/Web広告で作成した住宅用火災警報器 点検・交換推進の15秒CM動画を追加し、もダウンロードできるようにした。</p> <p>また、工業会ホームページの最初の大きなバナーに秋・春の全国火災予防運動のポスターを掲載し、ホームページに訪れる約7~8万/月クリックのユーザーに対してPRを実施した。</p>

<p>住宅用火災警報器 相談室の運営</p>	<p>フリーダイヤル(0120-565-911)による相談室を運営し、購入・設置・点検・交換・警報音など各種相談に対応するとともに、相談内容の傾向を把握した。</p> <p>最近の傾向として、【「電池の交換」や「電池切れや故障などの警報音」に関する問い合わせ】が多く、交換時期に来ている住宅用火災警報器の交換に対する理解を頂いている。 (昨年度より問い合わせ内容の50%を超えている。)</p> <p>2019年度 9.3%</p> <p>：</p> <p>2023年度 48.5%</p> <p>2024年度 56.7%</p> <p>2025年度 59.1% (1月末現在) 376件／641件</p>
<p>住宅防火推進シンポジウム等への協力</p>	<p>(1) 住宅防火防災推進シンポジウム・CATV事業への参加 工業会から委員を派遣し住宅用火災警報器のパネル展示、リーフレットの配布、着ぐるみ「消太くん」等によりPRした。 ① シンポジウム：2ヶ所（東京都・岡山市） ② CATV等事業：3ヶ所（東根市・新城市・我孫子市）</p> <p>(2) 第52回国際福祉機器展（令和7年10月8日～10日）への参加 東京ビッグサイトの展示場に工業会から委員を派遣し住宅用火災警報器のパネル展示、リーフレットの配布等によりPRした。今回は、着ぐるみ「とりカエル」を3日間登場させた結果、集客効果は大きかった。</p> <p>(3) 着ぐるみ「消太くん」及び「とりカエル」の貸出し事業の実施 消防署等からの申込に応じて貸出しを行い、防火防災イベントでの住宅用火災警報器の交換促進、その他のPRに活用して頂いた。（年度内約23回見込み）</p> <p>(4) 社会貢献委員会への事業協力 一般社団法人全国消防機器協会が所管する社会貢献委員会の寄贈事業に参画した。 ① 全国21の配付モデル事業地区向けに住宅用火災警報器を合計2,100個寄贈した。 「住宅用火災警報器に関する取組み等」の講演を行った。</p>
<p>住警器 実態調査の実施</p>	<p>3年ぶりに、住宅用火災警報器の実態調査を実施した。新築時に設置された住宅用火災警報器のうち、設置後に交換が行われていない住居を対象条件の一つとして抽出し、設置後の経過年数を踏まえた維持管理の実態を把握するために実施した調査であり、結果として、住宅用火災警報器対策は「設置」から「交換・更新を含めた維持管理の定着」へと重点を移す段階にあることが確認された。</p>

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般社団法人 日本ガス石油機器工業会

担当者名 専務理事 猪股匡順

事業項目	事業の概要
①消費者向け製品安全使用啓発セミナーの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年も消費者向けの製品安全使用啓発セミナーへ講師を全国へ派遣し、日々の防火・防災「ガス・石油燃焼機器の安全・安心な使い方」の講演を行った。※1 ・セミナーにおいて製品に起因する事故の未然防止や点検・取替えの目安の周知にて経年劣化による事故低減を図るなど、積極的な啓発活動を行った。(主に地域防火クラブや地域女性団体) ・令和7年実績 68会場 (受講者3,966名)
②製品安全使用啓発チラシによる普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省消防庁、経済産業省、(一財)日本ガス機器検査協会等にご後援名義をいただき、消費者向け製品安全使用啓発チラシを作成し ※1、セミナー、春・秋季全国火災予防運動、展示会、関係団体にて配布し啓発活動を行った。 ・春・秋季全国火災予防運動(11月・3月)において、消防本部・局窓口を通じた製品安全使用啓発チラシの提供配布を行った。 ・令和7年実績(春季13アイテム 18.8万部、秋季17アイテム 18.1万部) 計36.9万部
③工業会ホームページ・広報媒体による製品安全使用周知活動	<p>工業会ホームページや広報媒体を使用した安全使用啓発の周知活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正しい安全な使い方」での情報を提供した。 ・ガス機器・石油機器を安全で快適にご使用頂くための動画をYouTubeのチャンネルでも発信した。※2 ・カートリッジ燃料機器では、10月～12月に当工業会SNSアカウントでカセットボンベの製造年を確認しながら災害時に備えた「防災鍋」と「経年劣化に気をつけよう」の2つのキャンペーンを実施した。またYouTubeでのアニメ動画による注意喚起広告を合計約168万回再生で流し、多面的に注意喚起の情報拡散と認知拡大を図った。※3 ・雑誌(2誌)、消費者団体の機関紙(3団体)に、注意喚起広告を出稿し、普及に努めた。
④展示会における製品安全使用啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・1月に東京ビッグサイトで開催された東京消防庁出初式に出展し、「知って防ごう!住宅火災や日常生活の事故」のコーナーで、ガスこんろ・カセットこんろの展示と説明立会いをして、家庭での防火と防災を目的とした機器の使い方のPRや日常生活で注意すべきことの説明、火災事故を起こさないための注意喚起を行った。※4

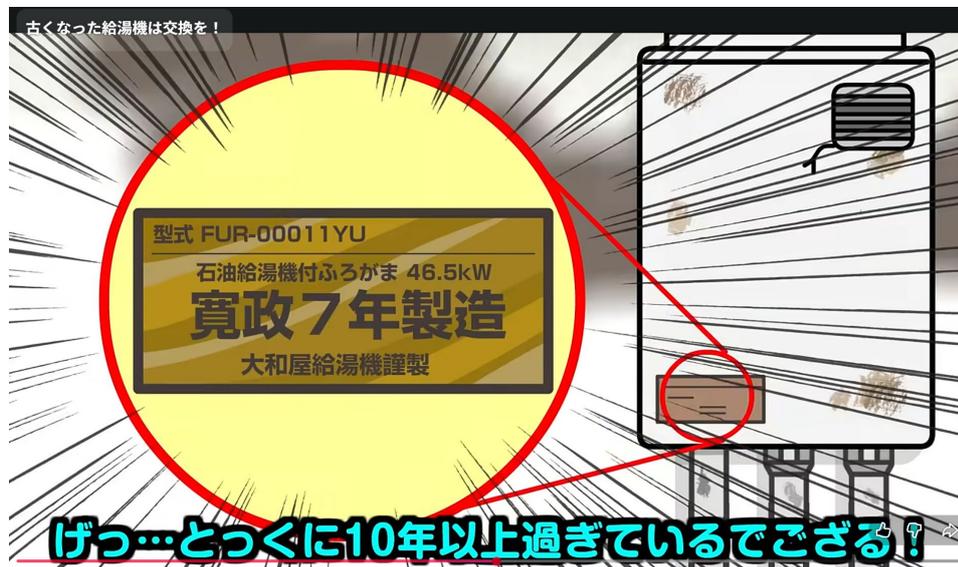
※1 安全啓発セミナーの様子
小樽市会場



松山市会場



※2 YouTubeのチャンネル
古くなった給湯機は交換を！



※3 カートリッジ燃料機器
防災鍋キャンペーン

備えるだけでなく、使って確認！

10/7はカセットこんろとボンベの日

#防災鍋 写真投稿
キャンペーン

カセットこんろで防災鍋を作って豪華賞品を当てよう！

#防災鍋キャンペーン を付けて投稿！

合計 100 名様

コメント投稿でWチャンスも！

JGKAの『防災鍋』の取組みとは

カセットこんろやカセットボンベ、アウトドア用バーナーなどの携帯ガス機器は、災害で被災したとき、食事をととのえ、生活を支える大切な道具です。

しかし、こんなことはありませんか？

- 備蓄品として買って置いてあるだけで、日常生活では全く使わない。
- カセットこんろの使い方がわからない！
- 備蓄していたカセットボンベの使用期限（製造後7年）をはるかに超えてしまっている。

これではいざという時に使えない！危険！

いざという時に役立てられるように携帯ガス機器を使って防災鍋をつくり、カセットこんろとカセットボンベの使用期限の確認をしましょう！

YouTubeのチャンネル

『古いカセットこんろに気をつけよう！高齢世帯編』



※4 東京消防庁出初式出展の様子



カセットこんろの経年劣化啓発キャラクター「コウカンガルー」の着ぐるみのカンタくん…小さなお子さんに大人気でした。



沢山のご来場者にお話を聞いていただきました。

古いコンロは火災リスクに要注意! **STOP!** **コンロ火災**

全口にセンサーが付き、安全機能の充実した**Siセンサーコンロ**への

安心 替え します!

Siセンサーを正しく使って安心調理!

【シセンサー】は、2015年より、燃焼センサーが搭載される、新しいSiセンサーコンロが標準として出荷され、安全機能が向上しています。



Siセンサーが安心を見守っています。

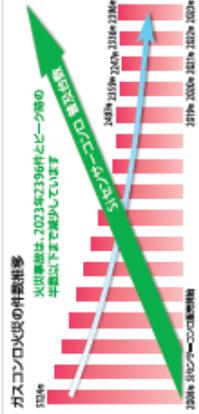
温度センサーで過熱しすぎをストップして、自然に火を止めます。

天然ガスは約170℃で自然に火を止めます。温度センサーは、170℃以上の温度を検知して、約180℃で250℃になると、自動で火力を調整して自然に火を止めます。(燃焼制御)



Siセンサーコンロ普及で火災事故が減少中!

Siセンサーコンロは既に住宅の70%に普及しています。コンロ火災は、このSiセンサーコンロの普及と共に年々減少、このコンロに搭載された過熱防止機能や消し忘れ防止機能など安全機能が有効にはいられていると考えられています。



ガスコンロ火災の件数推移
火災事故は、2023年2396件とピーク時の半減以下まで減少しています
2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 2024年
2024年12月現在 燃焼センサー付 Siセンサーコンロ 普及率 70%
2024年11月現在 燃焼センサー付 Siセンサーコンロ 普及率 70%

安心替えはお近くのガス器具取扱店、又はメーカーにご相談ください。
経済産業省 経済省消防庁 発行元: **JGKA 日本ガス石油機器工業会**
14-C195

STOP! **コンロ火災**

ガスコンロによる火災は **年間約2400件**発生
そのほとんどが「調理中のうっかりミス」!

チェックリスト

✓	今すぐチェック!	わが家の火災リスク	チェックリスト
1	調理中にその場を離れてしまったことがある	調理中は決してその場を離れない! 離れるときは火を消して、	火災
2	コンロの近くに燃えやすい物が置いてある	コンロの周りに燃えやすいものを置かないこと。	火災
3	火をつけたまま、コンロ奥のものをとろうとした	コンロの上や奥のものをとるときは火を消して、お掃除エプロンなどを使用すればなお安全。	着衣着火
4	グリル庫内に汚れがたまっている	グリルは定期的に清掃を、グリル掃除の方法は動画でチェック!!	火災



！安全にご使用いただくため！ 必ず守ってください！

カセットボンベが**異常過熱**される
扱いは絶対にしないでください。



カセットコンロやカセットボンベを不適切に取り扱えば**火災**や**破裂事故**が発生します。

容器カバーを覆う調理器具をのせない



カセットコンロを2台並べてその上に大きな鉄板をのせない。

容器カバーの上にかぶさるような大きな調理器具をのせない。

ストーブの近くなど高温になるところに置かない



ストーブ・ファンヒーターなどの近くに、カセットコンロ・カセットボンベを置かない。

電気調理器の上に置かない



電気調理器の上にカセットコンロやカセットボンベを置かない。

他の熱源の上や近くにボンベを置かない



ガスコンロ・七輪・鉄板焼器や焼鳥器・炭焼台など熱を出す他の調理器具のそばにカセットボンベを置かない。

炭の火起こしなど使用禁止の使い方をしない



セラミックスや石などで作られた蓄熱性の高い調理器具は使わない。

炭の火起こしに使わない。

残ったガスを室内でガス抜きしない



室内でカセットボンベのガス抜き作業をしない。

たき火や炭火の近くで使わない



たき火や炭火の近くにカセットボンベを置かない。

テント内や車内、狭い場所、締め切った場所で使わない



一酸化炭素中毒・窒息死に至る危険があります。

カセットボンベの廃棄はガスを使い切ってから

捨てる時は
振って
確認を!



①

缶を振っても
シャカシャカ
音がしない

中の
ガスが
ない

②

廃棄

お住まいの自治体の
ゴミの分別回収
ルールにしたがって
ください。

カセットボンベに
穴を開けて
ガスを抜くと
火事、爆発の
危険あり!

絶対に
しないでください

- カセットボンベにガスが残っている場合は、お湯を沸かすなど、カセットこんろで燃焼を使って缶の中を空にしてください。
- 燃焼に使えない古いカセットボンベの処理方法はメーカーまたは以下のカセットボンベお客様センターにお問い合わせください。
問合せ先:カセットボンベお客様センター 0120-14-9996 (平日10:00~16:00まで)

経年劣化にご注意を!

古くなったカセットこんろ・カセットボンベはガス漏れの危険性が生じます。

カセットこんろの場合



製造後約**10年**を目安に
買い替えのご検討を

製造年月の表示例

本体に貼ってある
「製造年月の表示」シールを確認してください。

24.01-A0000000
AAA AAA 株式会社〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 株式会社
→ 24.01
西暦下2桁 月

カセットボンベの場合



製造後約**7年**を目安に
使い切る

製造年月日の表示例

本体の底面に印字してある
「製造年月日の表示」を確認してください。



令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般社団法人 日本消火器工業会

担当者名 常務理事兼事務局長 舟山 仁一

事業項目	事業の概要
住宅防火シンポジウムへの協力	消防庁・住宅防火対策協議会が主催する令和7年度住宅防火シンポジウム開催（2会場）において、住宅用消火器等の説明や商品展示に協力。
住宅防火推進事業への協力	住宅防火推進協議会が主催する令和7年度住宅防火推進事業において、消防本部等が主催する住宅防火イベント3会場において住宅用消火器等の商品展示やケーブルテレビ取材に協力。
住宅用防災機器等展示会への出展事業	住宅防火推進協議会が主催する国際福祉機器展において、住宅用消火器等の出展に協力。
社会貢献事業への住宅用消火器の提供	全国消防機器協会による社会貢献事業に住宅用消火器を寄贈（令和7年度は20地区に対し合計500個を寄贈）。
住宅用消火器パンフレット作製・配布事業	住宅相消火器パンフレット「消火器のしおり」を8万部作成し、全国消防機関、設備協会等へ配布。
住宅用消火器の点検促進の情報提供	「家庭用消火器点検の日」（1月19日）に合わせて、工業会ホームページ上で、住宅用消火器点検の促進と方法についての情報を公開。
消防に対する住宅防火広報への協力	全国の消防本部等に対して、住宅防火や消火器リサイクルの広報を行うための資料やイラスト素材を提供。
廃消火器リサイクル普及への展示会出展	（株）消火器リサイクル推進差エンターと共同で「エコプロ2025」に出展し、来場者に住宅防火や家庭内に退蔵する老朽消火器の廃棄方法についての説明や展示を行った。 （3日間のブース来場者は約4,600人）

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名（一社）日本消火装置工業会

担当者名 業務主幹 中村 浩之

事業項目	事業の概要
住宅防火防災推進シンポジウムへの協力	住宅防火対策推進協議会が主催する令和7年度住宅防火防災推進シンポジウム開催会場2か所(東京都、岡山市)にて開催された。各開催地において「住宅用スプリンクラー」に集約した、パネル、DVD、主要機器の実機を展示し、説明員3名を派遣して、「住宅用スプリンクラー」のパンフレットの配布や来場者対応を実施した。
CATV等による住宅防火広報活動への参加協力	住宅防火対策推進協議会の共催事業である各消防本部主催のCATV等による住宅防火広報事業への参加に関しては開催会場3か所(山形県東根市、千葉県我孫子市、愛知県新城市)において、説明員2名を派遣して「住宅用スプリンクラー」に集約した、パネル・DVD・主要機器の実機を展示し、テレビ取材に協力を行うとともに、「住宅用スプリンクラー」のパンフレットの配布や来場者対応を実施した。
住宅用防災機器等展示への出展事業への協力	住宅防火対策推進協議会の出展事業である「第52回国際福祉機器展H.C.R.2025」の出展において、協議会ブース内に「住宅用スプリンクラー」・「特定施設水道連結型スプリンクラー設備」に集約した、電装自立型パネル(2基)・壁型パネル・DVD・主要機器の実機を展示し、各日説明員3名を派遣して来場者対応を実施した。また、展示関連のパンフレットの配布、アンケートを兼ねた住宅防火クイズの支援対応も行った。
住宅防火啓発用リーフレットの作成協力	住宅防火対策推進協議会事業である、シンポジウム等の住宅用防災機器紹介にて使用するリーフレットの作成に協力を行いました。

住宅用スプリンクラーおよび住宅用自動消火装置の製品例

		住宅用 スプリンクラー	住宅用下方放出型 自動消火装置		天ぷら油消火用 簡易装置
外観例			A 	B 	
防護範囲※	一般火災	13㎡	5㎡	2㎡	—
	台所火災 (天ぷら油火災)	—	3㎡	1㎡	0.5㎡
特徴		小型で目立たない 住宅全体の備えに最適 水道配管利用	装置単体で動作し設置が簡単で既存の住宅にも設置しやすい 「寝室」や「台所」等だけでも備えたい場合に最適		
参考サイズ 幅×高さ：重量		外観例参照 (天井取付)	31×21cm：9kg (天井取付)	20×25cm：5kg (天井取付)	10×47cm：4kg (壁面取付)

※住宅用スプリンクラーおよび住宅用自動消火装置の消火能力には限界があります。
すべての火災に完全に対応できるものではありません。

～各製品の詳細は販売店へお問い合わせください。～

大切な命と財産を守るため！

ぜひご検討ください！



一般社団法人 **日本消防装置工業会**

<http://www.shosoko.or.jp>



本部

〒105-0003
東京都港区西新橋2丁目18番2号
NKKビル4階
電話：03-5404-2181 FAX：03-5404-7371

関西支部

〒542-0081
大阪府大阪市中央区南船場3丁目2番22号
おおきに南船場ビル4階
電話：06-6245-0179 FAX：06-6245-6094

中部支部

〒453-0013
名古屋市中村区亀島2丁目12番地12号
コマツビル4階
電話：052-452-3971 FAX：052-451-4536

INE 2023. 9. 1000

住宅火災の逃げ遅れで 多くの方が亡くなっています！

住宅用スプリンクラーや住宅用自動消火装置で
大切な命と財産を守りませんか

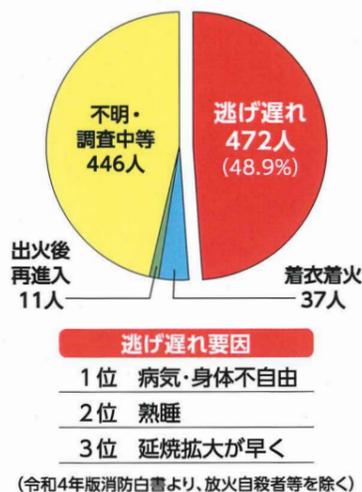


一般社団法人 **日本消防装置工業会**
Japan Fire Extinguishing Systems Manufacturers Association, General Incorporated Association

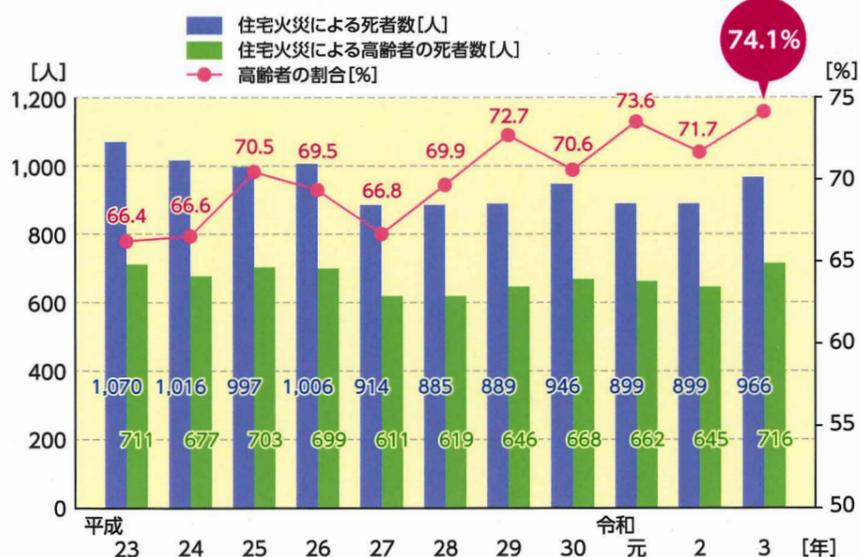
建物火災による死者のおよそ8割が住宅火災で亡くなっています!

その住宅火災による死者の多くは**逃げ遅れ**によるものです。
さらに死者の**およそ7割が65歳以上の高齢者**であり、その高齢者の死者数は横ばいの状況です。

住宅火災で死に至った経過別死者発生状況 (令和3年 計966人中)



住宅火災による死者数の推移と高齢者の割合



住宅には思わぬところに**火災の原因**が潜んでいます!

万一の火災による被害低減のため、高齢者など容易に避難できない方の避難や救助時間確保のために、**自動で効果を発揮する住宅用スプリンクラー**や**住宅用自動消火装置**で備えましょう。

寝室



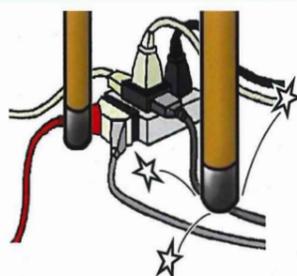
- 寝たばこ
- 布団のそばのストーブ
- ぬれた電気毛布
- 仏壇のロウソク

台所



- コンロで調理中に目を離す (テレビ・来客・電話・スマホ等)
 - 揚げ物油の発火
 - グリル等の油汚れの発火
 - ふきん等、周囲の可燃物に引火
- 水はねや蒸気による電気トラブル

リビング



- 電気コード類
 - たこ足配線
 - 束ねた電気コード
 - 家具による踏み付け
- ストーブ
- 白熱電球
- たばこの灰皿



- 住宅全体に備えたい! → **住宅用スプリンクラー** がおすすめです!
- 「寝室」や「リビング」だけでも備えたい! → **住宅用下方放出型自動消火装置** がおすすめです!
- 「台所」だけでも備えたい! → **天ぷら油消火用簡易装置** がおすすめです!

住宅用スプリンクラー 水を使用

住宅用スプリンクラーは水道水を利用し、火災時の熱を感知すると、自動的にスプリンクラーヘッドから散水します。高齢者など容易に避難できない方の避難や救助の時間を確保できます。

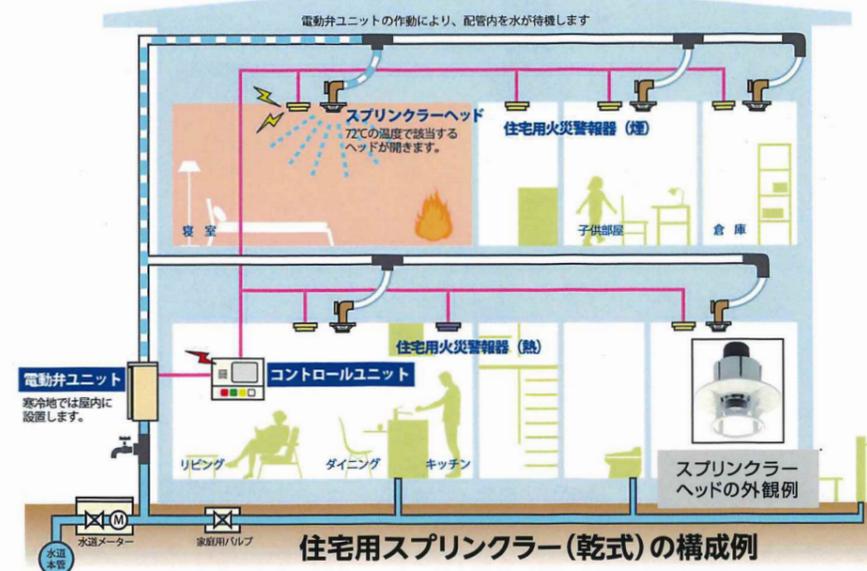
湿式 と 乾式 の2種類があります。

湿式

- 配管内に水が入っています。
- 電気工事が不要です。
- スプリンクラーヘッドが熱を感知すると散水します。

乾式

- 普段の屋内配管には水が入っておらず、火災を火災警報器が感知すると充水されます。
- 配管等の破損による水漏れの心配がありません。
- 凍結の心配もありません。



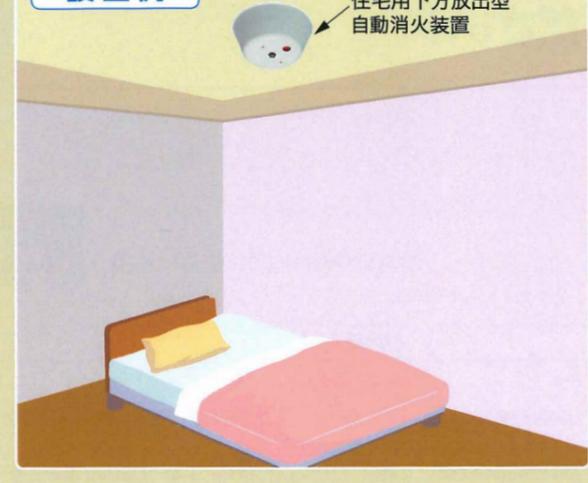
住宅用自動消火装置 薬剤を使用

住宅火災の初期消火に適した装置として国がその性能を規格化しており、**住宅用下方放出型自動消火装置** と **天ぷら油消火用簡易装置** の2種類があります。どちらも装置の中に消火薬剤を備えており、火災の熱を感知すると自動で放出します。

住宅用下方放出型自動消火装置

一般的な住宅に設置しやすいよう、様々な形状や大きさの製品 (本体床置、天井取付) があります。

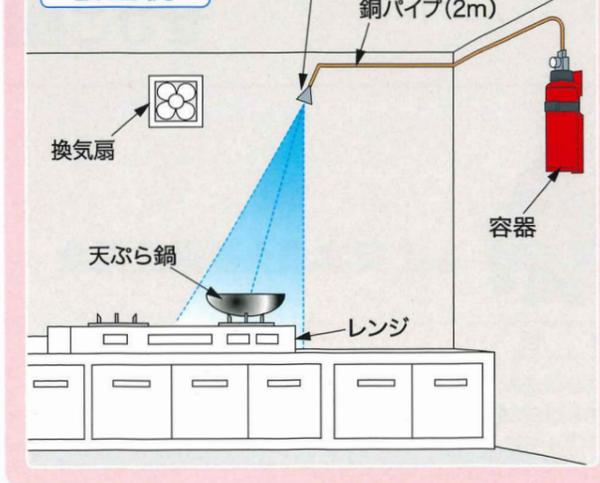
設置例



天ぷら油消火用簡易装置

台所火災専用の装置で、特に天ぷら油火災に対しては強力な消火能力を発揮します。

設置例



令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 一般社団法人 日本損害保険協会

担当者名 業務企画部 啓発・教育・防災グループリーダー 田中 裕司

事業項目	事業の概要
全国統一防火標語 ・ 防火ポスター	<p>防火意識の高揚を目的として、全国統一防火標語を掲載した2025年度防火ポスター（後援：消防庁）を約20万枚作成。</p> <p>同ポスターは、消防庁に寄贈し、2025年4月1日から全国の消防署ほか、市役所などの公共機関等で掲出。</p> <p>なお、この防火ポスターには、住宅用火災警報器の点検・交換の必要性を啓発する文言を記載している。</p>
軽消防自動車の寄贈	<p>地域における消防力・防災力の強化を目的として、全国の5市町村（離島を除く）および5離島に軽消防自動車を計10台寄贈。</p> <p>全国の市町村（離島を除く）には1952年度から、離島には1982年度から毎年、消防自動車や小型動力ポンプ等の消防資機材を寄贈している。（2025年度までの累計寄贈台数は3,531台）。</p>

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 一般社団法人日本たばこ協会

御担当者名 古川有紗

事業項目	事業の概要
喫煙マナー普及啓発活動	<p>たばこ火災注意喚起活動</p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 2011年度より全国消防長会・消防庁と協働し、死亡者が多い『寝たばこ防止』に関するたばこ火災注意喚起活動を全国で実施。 ◇ 一人暮らしの50代以上男性喫煙者を主な訴求対象とし、2016年度よりその主対象者層から支持を得ている往年の名作「めぞん一刻」を各種啓発ツールに起用し、寝たばこ防止三カ条を訴求。 <p>■2025年度施策概要</p> <p>2025年度も「令和7年度秋季全国火災予防運動」に合わせ、以下の啓発活動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ A4チラシ配布（98万部） 全国の消防機関等を通じてA4サイズのチラシを配布。2025年度は配布いただく際の補助となる配布マニュアルを作成。 ◇ 等身大バナースタンド（21消防本部、50個） 一部の政令指定都市にある消防局へ過去配布した等身大バナーの継続利用。 ◇ ポケットティッシュ配布（25万個） 全国たばこ販売協同組合連合会のたばこ販売店や全国の消防機関を通じポケットティッシュ配布による啓発を実施。 ◇ 全国たばこ新聞への記事掲載 たばこ購入者への啓発に向け、全国のたばこ販売店に訴求。 ◇ 地域重点施策 たばこ火災死者数上位のエリアにおいて主対象者、主対象者のご家族・友人・知人を対象にモニター調査実施。 ◇ 炊き出し・配食コラボ企画 主対象者層を中心に炊き出しや配食の活動をされている団体と協同。炊き出しや配食の場でA4チラシ、ポケットティッシュ、手袋等を配布するとともに呼びかけ実施。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

一般社団法人日本DIY・ホームセンター協会

丸澤 寛頼

事業項目	事業の概要
関係機関からの周知依頼に対する協力	総務省消防庁（住宅防火・防災キャンペーン、秋季および春季全国火災予防運動、感震ブレイカーの普及推進に関する計画の策定等）および東京消防庁（危険物品の陳列販売等に係る規制）からの周知依頼に対して、小売業（ホームセンター）を通じ、広報活動に協力いたしました。
展示会での防災（防火）に係る周知啓発	弊協会主催の「第61回 JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2025」（2025年8月21日～23日、於：幕張メッセ、来場者数：66,340人）で防災イベント（消防当局による緊急時のVR体験等）や火災対策に係るセミナーの開催をはじめ、出展企業による防災用品の展示を実施しました。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 一般社団法人 日本配線システム工業会

御担当者名 住宅盤専門委員会技術小委員会 副主査 三輪修

事業項目	事業の概要
イベントでの普及啓発	配線器具の日（11月11日）に主要都市において街頭活動を行い、配線器具の安全利用の促しや感震ブレーカーデモ機を利用して、一般の方への感震ブレーカーの普及推進を実施した。
チラシ及びホームページでの広報	当工業会のホームページに感震ブレーカーの紹介と選定詳細資料を掲示。 チラシを利用し、電力関連団体への普及促進を実施した。
感震デモ機の貸出	他団体が行うイベントや講習会にて感震デモ機を利用した普及啓発活動を実施した。防災センターでのデモ機の設置。

令和7年度「配線器具の日」行事实施結果報告

毎年9月1日から11月30日までの3ヶ月間を「配線器具の日の普及啓発事業」の期間と定め、配線器具の日の認知度向上を狙いとし、配線器具・住宅用分電盤を安全に使用頂くための「配線器具・住宅用分電盤 安全使用運動」を展開しております。

その一環として毎年11月11日を「配線器具の日」と定め、配線器具類の安全使用の普及に関する行事を開催しており、今年で27年目を迎えました。今回の行事は11月11日火曜日に首都圏（横浜）、名古屋、大阪、で一般消費者を対象に街頭キャンペーンを実施しました。この街頭キャンペーンは「配線器具の日」設立の目的である「エンドユーザーに配線器具・住宅用分電盤の点検と交換を訴求する」という原点に立ち戻り、平成21年より始め今年で15回目となります。

【開催場所・日時】

地区	日時	街頭キャンペーン場所	参加メンバー
首都圏 (横浜)	11月11日 (火) 10:00～14:00	横浜駅東口 新都市プラザ (そごう横浜店前)	首都圏地区会員会社 全関東電気工事協会 合計17名
名古屋	11月11日 (火) 10:30～12:30	J R名古屋駅桜通口前	中部地区会員会社 合計12名
大阪	11月11日 (火) 11:00～13:00	京橋 ツイン21 アトリウム 1F	大阪地区会員会社 合計12名

【配布物】

ポリエステル製エコバッグに次のパンフレットを入れたものを配布しました。

内容物：①配線器具の点検・交換の目安パンフレット

②住宅用分電盤パンフレット

③住まいの照明ハンド Book

④横浜のみ住宅電気工事センター問合先紹介チラシ（全関東電気工事協会提供資料）

配布数：5,800 セット

※内訳 横浜 3,600 セット、名古屋 1,100 セット、大阪 1,100 セット

【開催状況】

今年度の配布物は、折畳んで小さくまとまるポリエステル製で本体色をネイビー、カーキ、ブラックの3色として、配布数は3会場合計で5,800セットを配布しました。また、横浜会場では感震機能付住宅用分電盤デモ機の動作展示、(独)製品評価技術基盤機構(nite)のホームページで公開されているコンセントのトラッキングや異常発熱に関する注意喚起映像の展示、コンセント適正設置等に関するパネル展示を行いました。

これらの活動を通して、より多くの方に配線器具と住宅用分電盤に対する定期点検の重要性をお

伝えることができました。

今後もより広く、また多くのエンドユーザーの皆様へ「配線器具の日」の活動を知っていただき配線器具・住宅用分電盤などに対する安全点検の啓発に努めて参ります。

【街頭キャンペーン参加者】

首都圏（横浜）参加者



名古屋参加者



大阪参加者



■ 普及啓発パンフレット

暮らしを守る！
住宅用分電盤
日々、進化する住宅用分電盤。家の変化にあわせて分電盤の見直しをお考えください！

太陽光発電で、電気代をおさえたい！
蓄電池で、災害に備えたい！
雷から家電を守りたい

快適な生活をおくりましょう！
分電盤で便利に暮らす&安心して暮らす
自然災害に備えましょう！

家をリフォームしてIHキッチンにしたい！
電気自動車に乗り換えたい！
地震に備えたい

こんなことはありませんか？
うちの分電盤古いけど、安全かな？
最近ブレーカがよく落ちるけど、大丈夫かな？

いざという時、慌てずすむように！
分電盤の安全点検も忘れずに！

電気設備の点検等を行った訪問者にご注意ください。お取替えは安心できる工事業者様へ

dewa 一般社団法人 日本配線システム工業会

<感震ブレーカーの内容>

電気で暮らしの安心を守るために
災害対策2つのオススメ！

オススメ
1 感震ブレーカーの取付けをおすすめします！

大規模地震時や地震後の電気復旧時には電気火災が発生するおそれがあります。感震ブレーカーは地震の揺れを感知すると電気を自動的に遮断して電気火災を抑制します。

ブレーカ OFF

万一の地震時に電気火災を防止します。

感震ブレーカーのはたらき

基本動作 地震波を感知すると、設定時間の遅延、電線ランプの点滅およびブザーが鳴動した後、主幹ブレーカが自動遮断	3分後 その後の地震の発生で電線が断れる	主幹ブレーカ遮断
停電が発生した場合 地震波感知から自動遮断するまでの間に停電が発生すると、復電時に主幹ブレーカが自動遮断	ランプとブザーでお知らせ	停電発生 復電時に主幹ブレーカ遮断
停電後に地震が発生した場合 停電後、8秒以内に地震波を感知すると、復電後に主幹ブレーカが自動遮断	停電発生	復電時に主幹ブレーカ遮断

地震発生時以上の揺れを感知して電気を遮断する。地震が静かになると自動的に電気を再開する。地震発生時に電気を遮断する。地震発生時に電気を再開する。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 ガス警報器工業会

担当者名 事務局長 中村 毅

事業項目	事業の概要
① ガス警報器設置・交換運動	・総務省消防庁、経済産業省にご後援を頂いた「令和7年度ガス警報器設置交換促進啓発ポスター(※1)」(約2.7万枚)及び広報パンフレット「ガスもれ事故防止のための手引き」(約32万部)を、消費者団体、ガス事業者、全国消防本部等の関係団体の約700ヶ所に配布をして、各種警報器の設置及び交換促進の啓発活動を行った。
② 展示会等における住宅用火災・ガス・CO警報器の普及啓発活動	・住宅防火対策推進協議会が主催する、各地消防本部にて実施するシンポジウム、ケーブルテレビ事業にて、各種警報器のPRを行った(山形県東根市、千葉県我孫子市、東京都港区、愛知県新城市、岡山県岡山市の5地区での事業に参加し、啓発活動を行った)。 ・国際福祉機器展H. C. R. 2025&フォーラムの住宅防火対策推進協議会ブース内に出展し、実機サンプル、展示パネル等を用いて一般消費者に対して各種警報器のPRを行った(ブース来場者アンケート回答数は約2,760人)。
③ 関係団体等が実施する研修会における住宅用火災・ガス・CO警報器の普及啓発活動	・(一財)日本防火・防災協会が主催する、女性防火クラブ幹部地域研修会にて、中国・四国ブロック(香川県)、北陸・中部ブロック(愛知県)にて、実機サンプル等を用いた各種警報器の紹介や、その維持管理、交換促進に関する情報提供を行った。 ・ガス関係団体、消費者団体等が実施する保安講習会にて、講師を派遣して各種警報器のPRを行った。(新潟県・秋田県・滋賀県・和歌山県・大阪府・福岡県の各地で計24回)。
④ 一般の消費者に向けた住宅用火災・ガス・CO警報器の普及啓発活動	・インターネットを利用し、ガス警報器に関する一般的な知識や、設置交換意識の醸成を図った(実施期間:5/27~7/31)。同時に警報器に関する意識調査を行い、警報器のお役立ち事例を集め、「全国のお客様の声(※2)」パンフレットとして編纂し、各種警報器の広報活動に役立てた。



※1
「令和7(2025)年度ガス警報器設置交換促進啓発ポスター」



※2
「2025年度 全国のお客様の声」

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 公益財団法人 日本防災協会

担当者名 総務部 広報室長 石渡 英幸

事業項目	事業の概要
展示会への出展	1 10月に東京ビッグサイトで開催された「第52回国際福祉機器展 H.C.R. 2025」に出展し、来場した福祉施設関係者や高齢者等在宅看護する方々に防災品の必要性・有効性等をPRした。 2 1月に東京ビッグサイトで開催された「令和8年東京消防出初式」に出展し、来場した関係者の方々に防災品の必要性・有効性等をPRした。
防災品の寄贈	(一社)全国消防機器協会・社会貢献事業に参加し、全国20ヶ所の町会・自治会に防災毛布を1地区25枚、合計500枚を寄贈した。
消防本部が行う住宅防火対策事業への支援	住宅防火対策事業を推進している消防本部に対し、この事業での活用を目的として防災品に関するパンフレット・チラシ等を配布した。
防災講座	全国の消防本部・消防学校の消防職員その他、消防団員や地域の自主防災組織、町会自治会等の防災リーダーに対して、住宅防火等における防災品の有効性等認知度向上のため防災講座を59回開催した。

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

貴団体名 電気保安協会全国連絡会

担当者名 事務局長 白井 基晴

事業項目	事業の概要
<p>感震ブレーカーに係る周知啓発活動</p>	<p>全国の10の電気保安協会では、電気事業法第57条の2に基づく調査業務の登録調査機関として、送配電事業者等からの委託を受け、4年に1回以上の頻度で一般住宅等を訪問し、電気設備の安全点検を実施している。</p> <p>同点検にて一般住宅等のお客さまに配付する「電気安全パンフレット」では、感震ブレーカーに関する内容を掲載し、感震ブレーカーに係る周知啓発活動を実施した。なお、お客さまが不在の場合は、同パンフレットは、郵便受け等へ投函した。</p> <p>なお、令和7年度の「電気安全パンフレット」の配付部数は、約1,000万部。</p> <div data-bbox="598 1025 1189 1059" style="text-align: center;"> <h3>電気安全パンフレット 感震ブレーカーの掲載例</h3> </div> <p style="text-align: center;">出典：一般財団法人 北陸電気保安協会 https://www.hokuriku-dhk.or.jp/personal/research/</p>

令和7年度 住宅防火対策推進事業実施結果

団体名 日本消防検定協会

担当者名 企画研究課課長 齋藤英基

事業項目	事業の概要
住宅用防災警報器の作動状況等に関する調査研究	火災時における住宅用防災警報器の作動状況等（作動なしの理由、型式番号等）について、全国の消防本部から収集した令和6年中のデータを基に、学識経験者による調査、分析することを一般財団法人 全国消防協会に委託し、実施した。
住宅用防災機器の普及促進・広報事業	一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会に委託して制作した冊子を全国の消防本部に配布するとともに、全国の消防本部が住宅防火対策普及促進活動のために使用できるよう当協会のホームページに掲載し、住宅用防災機器の普及促進に係る広報事業を実施した。 一般財団法人 日本防火・防災協会に委託して制作した冊子を全国の消防本部を通じ、女性防火クラブに配布し住宅用防災機器の普及促進に係る広報事業を実施した。